様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月１１日現在

機関番号：１５２０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００８～２０１１
課題番号：２０５２０３８６
研究課題名（和文）戦国簡牘文字の地域差に関する基礎的研究
研究課題名（英文）Identifying the Regional Differences in the Characters and the Calligraphic Styles of Wooden and Bamboo Scripts of the Zhanguo Period

研究代表者
福田　哲之（FUKUDA　TETSUYUKI）
島根大学・教育学部・教授
研究者番号：１０２０８９６０

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：漢字・古文字・戦国文字・竹簡・竹書・楚・秦

１．研究計画の概要

本研究は、（１）戦国簡牘資料の整理・分類、（２）［文書類］の比較分析、（３）［書籍類］の比較分析、（４）分析結果の考察とまとめ、という４本の柱からなり、主として文字の形体面に注目した実証的な比較分析を行う。各年度の概要は以下のとおりである。

平成 20 年度は、楚系簡牘資料および秦系簡牘資料の整理・分類を中心に研究を行い、新たに公表される新出土資料についても適宜、追加・補充に努める。

平成 21 年度は、前年度の整理・分類にもとづき、現地性文献である［文書類］の実態を把握し、秦簡文字と楚簡文字との形体上の相違について分析を加える。

平成 22 年度は、楚簡の［書籍類］を中心に分析を加え、特に楚地で書写されたと見なされる現地性文献の実態を把握する。

平成 23 年度は、前年度の分析を継続して行うとともに、これまでの分析結果を踏まえて、戦国文字における分立と混淆の実態について考察を加える。

２．研究の進捗状況

本研究によってこれまでに得られた成果は、大きく以下の３点にまとめられる。

（１）上海博物館蔵戦国楚竹書の中に楚国の教学の場において学習者が書写したと見なされる習本が含まれていることを指摘し、［書籍類］に属する楚簡のテキストの多様性の一端を解明した。

（２）秦の文字規範を示す『蒼頡篇』について、2008 年に出土した新資料である水泉子漢簡七言本『蒼頡篇』を中心に分析を加え、『説文解字』前史への位置づけを試みるとともに、七言本『蒼頡篇』が『漢書』芸文志に記された逸書である「蒼頡伝」に該当する可能性を指摘した。

（３）戦国簡牘文字の地域差という観点から水偏に注目し、水偏を三本の短い横画であらわす、いわゆるサンズイは戦国中期以前の秦において独自に成立した俗体であった可能性を指摘し、楚簡を含めた戦国簡牘にみえる多様な水偏の分析をとおして、サンズイの成立過程を明らかにした。

３．現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

当初の計画に従い、［文書類］と［書籍類］についての調査を進めるとともに、新たに公表された資料を追加し、研究の成果は逐次、雑誌論文、図書、インターネットなどを通して発表しているから。

４．今後の研究の推進方策

（１）簡牘文字の分析をさらに継続するとともに、これまでの研究成果を積極的に発表していく。

（２）新たに公表された清華大学蔵戦国竹簡、岳麓書院蔵秦簡などの資料も可能な限り分析・考察に加えていく。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 福田哲之、『天子建州』甲乙本の系譜関係、中国出土文献研究 2010 中国研究集刊 別冊、第 52 号、42―60 頁、2010 年、査読有
② 福田哲之、水泉子漢簡七言本『蒼頡篇』

考―『説文解字』以前小学書における位置―、東洋古典学研究、第 29 集、2010 年、1―17 頁、査読有（中文訳を武漢大学簡帛研究中心「簡帛」インターネット〈2010 年 11 月 26 日〉に発表）

③ 福田哲之、上海博物館蔵戦国楚竹書の特異性―『君人者何必安哉（甲本・乙本)』を中心に―、中国研究集刊、第 50 号、228―247 頁、2010 年、査読有

④ 福田哲之、上博楚簡『武王践阼』簡 6・簡 8 簡首缺字説、中国研究集刊、第 48 号、2009 年、69―74 頁、査読有（中文訳を武漢大学簡帛研究中心「簡帛」網インターネット〈2009 年 3 月 24 日〉に発表）

⑤ 福田哲之、別筆と篇題―『上博（六)』所収楚王故事四章の編成―、中国研究集刊、第 47 号、24―42 頁、2008 年、査読有（中文訳を武漢大学簡帛研究中心「簡帛」インターネット〈2008 年 11 月 15 日〉に発表）

〔学会発表〕（計３件）

① 福田哲之、上海博物館藏戰國楚竹書的特異性―以〈君人者何必安哉〉甲本・乙本爲中心―、「漢字圏之伝統与現代」国際学術研討会、2009 年 11 月 28 日、台湾・明道大学

② 福田哲之、別筆和篇題―《上博（六)》所収楚王故事四章的編成―、国際学術研討会―東アジア文化の発生・変遷・交流―、2008 年 10 月 25 日、台湾・致遠管理学院

〔図書〕（計４件）

① 書学書道史学会編、萱原書房、書学書道史論叢 2011、2011 年、印刷中

② 谷中信一編、汲古書院、出土資料と漢字文化圏、2011 年、97―120 頁

③ 湯浅邦弘編著、概説 中国思想史、ミネルヴァ書房、2010 年、270―286 頁

④ 浅野裕一編、汲古書院、竹簡が語る古代中国思想（三）―上博楚簡研究―、2010 年、203―263 頁

〔その他〕

ホームページ

http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/Senkou/Gengo/Kokugo/fukuda-t.html

http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/sokankenkyukai/research.html

http://www.bsm.org.cn/